

京都府中小企業技術センター協力会「M&T交流会」

京都府中小企業技術センター協力会は、会員相互の交流と情報交換の場として、毎年開催している「M&T交流会」を3月21日(金)に京都駅近くの新・都ホテルにおいて、「セミナー」と「会員交流会」の二部形式で協力会会員以外にも参加を呼びかけて開催しました。

今回のセミナーは、大阪産業大学客員教授の真弓和昭氏に「基本ソフトTRONの挫折と再生」(NHKプロジェクトXの裏話)とのテーマでご講演いただきました。



真弓 和昭氏

〈セミナー概要〉

TRONプロジェクトは、1980年代に坂村健東大助手(当時)がリアルタイムに応答するコンピュータ基本ソフトの開発を提唱し、当時、松下電器産業に所属していた真弓さんはじめ、東芝、NEC、富士通、IBM、TIといった国内外の代表的な企業から多くの研究者が参加しました。試作されたTRON搭載パソコンは、電源を入れると即座に起動し、ワープロや表計算ソフトも即座に立ち上がりました。マイクロソフトからウィンドウズ95が発売される5年以上前にウィンドウズと同等の機能を先取りし、反応スピードの速い基本ソフトが創られ、一般に公開されました。そしてTRONを学校教育用パソコンに採用しようとの話が出た1989年ごろ、ちょうど日米貿易摩擦問題が持ち上がり、米国が非関税障壁(スーパー 301条)の候補にTRONパソコンを挙げたとのニュースが伝わり、プロジェクトを後押ししていた通産省・文部省(当時)や参加企業は、米国の脅しの前にスーッと引いていったのでした。まだ海のものとも山

のものとも分からないTRON搭載パソコンよりも、現に家電やオーディオ製品を売っているアメリカ市場を大切にしたいとの判断だったのでしょう。

TRONプロジェクトは、パソコン基本ソフトとしての開発を断念せざるを得ませんでした。研究者たちは「隠れTRON」として家電などへの組込みソフトの開発を続けました。そして今では、自動車のエンジン制御をはじめ、携帯電話、通信カラオケ、家電製品など、私たちの身の回りの様々な機器にTRONが組み込まれて使われるようになりましたが、TRONとの表示が一切ない「隠れTRON」ですから、消費者の多くは知らないで使っていることなど、プロジェクトに関する様々なエピソードを交えながら約1時間半の講演をいただきました。

質疑応答の際には、「トロンマニア」を自称する方がTRONを装備したパソコンを持ち込み、実際に操作してみせる1コマもあるなど、参加者の関心の高さがうかがえました。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
企画連携課 情報・デザイン担当

TEL:075-315-9506 FAX:075-315-9497
E-mail:design@mtc.pref.kyoto.lg.jp

環境講演会「有用金属の回収・リサイクルのしくみ」のご案内

日本は巨大な都市鉱山といわれ、製品化された材料中の有用金属の蓄積量は世界有数といわれます。家電製品をはじめ、工場で発生するスクラップ中には金、プラチナなどの貴金属、チタン、タングステン、モリブデンなどのレアメタルが多種含まれます。金属資源の枯渇、高騰の中、これらの回収・リサイクルは重要であり、廃棄物の資源化の点からも今後注目が必須です。どのような金属がどのような材料中に含まれるのか。これらを回収し、リサイクルするルート・技術はどうなっているのか。どのようなものがリサイクルの対象になるのか。生産現場の取組の可能性を探ります。

〈日程〉 平成20年7月8日(火) 13時30分～15時30分

〈場所〉 京都府中小企業技術センター 5階研修室

〈テーマ〉 「有用金属の回収・リサイクルのしくみ」

DOWAエコシステム(株)環境ソリューション室 室長 加藤 秀和氏

〈定員〉 70名

〈参加料〉 無 料

参加ご希望の方は、ホームページからお申し込みください。

<http://www.mtc.pref.kyoto.lg.jp/rea/sem/kag/kankyokouen>

※当センター中丹技術支援室(北部産業技術支援センター・綾部)研修室でも同時ライブ中継します。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
基盤技術課 化学・環境担当

TEL:075-315-8633 FAX:075-315-9497
E-mail:kankyo@mtc.pref.kyoto.lg.jp